

# 第28回ITER理事会の 結果について

文部科学省 研究開発局  
研究開発戦略官（核融合・原子力国際協力担当） 付

日 程： 令和3年6月16日（水）・17日（木）

※新型コロナウイルスの感染拡大のため、前回に引き続きテレビ会議により開催。

議 長： ルオ 中国科学技術部核融合エネルギー計画執行センター長

出席者：

（日本）松尾 文部科学審議官、鎌田 QST那珂研副所長（文部科学省参与）ほか

（欧州）ガリバ 欧州委員会エネルギー総局副総局長ほか

（米国）ビンクリー エネルギー省科学局次長ほか

（ロシア）ボロフコフ 連邦政府官房副補佐官ほか

（中国）チェン 科学技術部国際協力局次長ほか

（韓国）クオン 科学技術情報通信部巨大科学政策局長ほか

（インド）グローバー 原子力委員会委員ほか

（ITER機構）ビゴ機構長、多田副機構長ほか

議 題：

（1）開会挨拶（議長、各極首席政府代表、機構長）

（2）ITER計画進捗報告

（3）ITER建設活動のマネジメント

（4）その他



（令和3年6月時点・ITERサイト）

## 1. ITER計画の進捗

- 運転開始までの建設作業は**約73%進捗**。
- 新型コロナウイルスの影響下においても、**主要機器がITERサイトに納入されるなど、組立活動が進展**。

- **日本・欧州の超伝導トロイダル磁場(TF)コイル7機が順次サイトに到着**  
日本のTFコイルの到着状況：1号機 2020年4月25日到着 (世界初号機)  
2号機 同年7月3日到着  
3号機 2021年3月12日到着 ※右写真
- **サイトにおいても最初のポロイダル磁場(PF)コイルがトカマクピットに据付けられるなど、組立活動が多数進展** ※下写真



(運搬中の日本のTFコイル3号機)

- **2035年核融合運転開始という現行のスケジュールは維持**。
- 他方、プロジェクトに対する新型コロナウイルスの影響は依然として継続していることから、**2025年運転開始(ファーストプラズマ)**というスケジュールへの影響について、ITER機構で精査するとともに、**影響を最小化するための対策を引き続き実施**。

対策の例：サイトにおいて段階的に実施することとしていた作業を同時進行で実施

## 2. ITER運転期の基本方針の策定

- ITERの運転期が近付いていることから、運転期におけるITER機構と各極の役割分担、必要となる人的リソースの全体像など、**運転期の基本方針**について議論を開始する必要。
- ITER運転期の基本方針を検討する**各極担当者会議の設置を日本から提案し、各極の賛同を得て設置が決定**。



(トカマクピットに据付けられるPFコイル)